



注) 1. ●印の部会は、休会中。

2. ()内の国は、ホスト国名。

3. 執行委員会は、議長、3副議長、6地域調整国(アジア、アフリカ、ヨーロッパ、ラテンアメリカ・カリブ海、近東、北アメリカ・南西太平洋)及び7地域代表(アジア、アフリカ、ヨーロッパ、ラテンアメリカ・カリブ海、近東、北アメリカ、南西太平洋)で構成。第30回総会(2007年)において、我が国がアジア地域代表として選出された。

4. 下線部及び取消線は、第31回総会(2008年)において決定された事項。ナチュラル・ミネラル・ウォーター部会の休会、バイオテクノロジー応用食品特別部会及び急速冷凍食品の加工及び取扱いに関する特別部会の解散が決定された。

FAO / WHO 合同食品規格計画

第 2 回抗菌剤耐性に関する特別部会

日時 : 2008 年 10 月 20 日 (月) ~ 10 月 24 日 (金)

場所 : ソウル (韓国)

仮議題

1.	議題の採択
2.	コーデックス総会及びその他の部会からの付託事項
3.	FAO、WHO 及び OIE による抗菌剤耐性に関する作業の情報
4.	食品由来の抗菌剤耐性菌に係るリスク評価指針
5.	リスク評価及び管理における食品由来の抗菌剤耐性菌の優先付けのためのリスクプロファイル作成に関する指針
6.	食品由来の抗菌剤耐性菌の封じ込めのためのリスク管理指針
7.	その他の事項及び今後の作業
8.	次回会合の日程及び開催地
9.	報告書の採択

第 2 回抗菌剤耐性に関する特別部会の主な検討議題

日時 : 2008 年 10 月 20 日 (月) ~ 10 月 24 日 (金)

場所 : ソウル (韓国)

主要議題の検討内容

議題 1 議題の採択

本件については、「コーデックス委員会の手続きのルール」のルール VII Agenda (議題) の第 5 項及び XI **Subsidiary bodies** (下部組織) の第 11 項に従い、議題 3 と 4 の間に、新議題として「**Structure of the Integrated Document** (統合されたガイダンス文書の構成)」を追加する提案を行ったところである。

本提案の理由は以下の通り。

- (1) 本部会に先立ち、本年 5 月に開催された「食品由来の抗菌剤耐性菌に係るリスク評価指針」、「リスク評価及び管理における食品由来の抗菌剤耐性菌の優先付けのためのリスクプロファイル作成に関する指針」及び「食品由来の抗菌剤耐性菌の封じ込めのためのリスク管理指針」の原案を作成する 3 つの作業部会 (**Working Groups**: 以下、**WG** という。) において各原案について検討した結果、ガイダンス 3 文書をより有効に利用することが出来るようにこれらを 1 つに統合することを第 2 回会議へ提案することが合意されていることから、本会議はこの提案に従うことが適切であると考えられるため。
- (2) ガイダンス 3 文書を 1 文書に統合するならば、先に統合文書の構成を検討した後、議題 4~6 の個別のガイダンス案を討議することが、文書作成において効率的であると考えられるため。

議題 4 食品由来の抗菌剤耐性菌に係るリスク評価指針 (ステップ 4)

WG で作成されたガイダンス文書案について検討がなされる予定である。

本件については、抗菌剤耐性菌のリスク評価に関する既存の国際的なガイダンスとの整合性を図りつつ、消費者の健康保護に専ら焦点を置き、科学的なリスク評価を実施すべきとの立場で対処したい。特に、利用しやすいガイダンスにするために、WG の提案である、ガイダンス案の「緒言」、「定義」、「文書化」、「リスクコミュニケーション」等、他の 2 つのガイダンスと共通する各項の整合性を図ることについては支持し、ガイダンスの「範囲」の項の内容も同様に整合性を図るよう対処したい。

議題5 リスク評価及び管理における食品由来の抗菌剤耐性菌の優先付けのためのリスクプロファイル作成に関する指針（ステップ4）

WGで作成されたガイダンス文書案について検討がなされる予定である。

本件については、各国及び各地域の抗菌剤の使用量、使用方法、抗菌剤耐性菌の発現状況・食中毒の発生状況等に応じて、適切なリスクプロファイルの作成及びリスク管理の優先順位付けができるよう、既存の国際的なガイダンスとの整合性を図りつつ、様々な状況に適用可能なガイダンスが作成されるべきとの立場で対処したい。特に、利用しやすいガイダンスにするために、WGの提案である、ガイダンス案の「緒言」、「定義」、「文書化」、「リスクコミュニケーション」等、各項の内容を他の2つのガイダンスと整合性を図ることについては支持し、「一般原則」の項の内容が「食品由来の抗菌剤耐性菌の封じ込めのためのリスク管理指針」と同様であることから、重複を避け、整合性を図るよう対処したい。

議題6 食品由来の抗菌剤耐性菌の封じ込めのためのリスク管理指針（ステップ4）

WGで作成されたガイダンス文書案は、WGで十分に検討することができなかつたため、さらに説明文の追加等の検討が行われる予定である。

本件については、各国及び各地域の抗菌剤の使用量、使用方法、抗菌剤耐性菌の発現状況、食中毒の発生状況等に応じて、リスク評価結果に基づく適切なリスク管理ができるよう既存の国際的なガイダンスとの整合性を図りつつ、様々な状況に適用可能なガイダンスが作成されるべきとの立場で対処したい。

特に利用しやすいガイダンスにするために、WGの提案である、ガイダンス案の「緒言」、「定義」、「文書化」、「リスクコミュニケーション」等、各項の内容を他の2つのガイダンスと整合性を図ることについては支持し、「一般原則」の項の内容が「リスク評価及び管理における食品由来の抗菌剤耐性菌の優先付けのためのリスクプロファイル作成に関する指針」と同様であることから、重複を避け、整合性を図るよう対処したい。

FAO / WHO 合同食品規格計画

第 30 回栄養・特殊用途食品部会

日時 : 2008 年 11 月 3 日 (月) ~11 月 7 日 (金)

場所 : ケープタウン (南アフリカ)

仮議題

1.	議題の採択
2.	コーデックス総会及びその他の部会からの付託事項
3.	栄養強調表示の使用に関するガイドライン: 栄養成分表示の条件表案 (Part B: 食物繊維含有量について)
4.	乳児及び年少幼児向けの特別用途食品に使用される栄養素配合物の推奨リスト案 (Part D: 特別な栄養構造をとるために使用される食品添加物の推奨リスト: アラビアガム規定)
5.	栄養・特殊用途食品部会により適用される栄養学的リスク分析の原則及びガイドライン案
6.	健康強調表示の科学的根拠についての勧告原案
7.	栄養表示ガイドラインに則った表示を目的とした栄養参照量 (NRV) の追加あるいは改訂原案
8.	必須栄養素の食品への添加に関するコーデックス一般原則 (CAC/GL 09-1987) を修正するための新規作業の提案に関する討議文書
9.	低体重乳幼児向け穀物加工食品規格作成のための新規作業の提案に関する討議文書
10.	その他の事項及び今後の作業
11.	次回会合の日程及び開催地
12.	報告書の採択

※標記会合に先立ち、2008 年 11 月 1 (土) に「栄養参照量 (NRV) : 健康強調表示及び『食事、運動及び健康に関する WHO の世界的な戦略』に係る事項」に関する作業部会が開催される予定。

第 30 回栄養・特殊用途食品部会 (CCNFSDU) の主な検討議題

日時 : 2008 年 11 月 3 日 (月) ~11 月 7 日 (金)

場所 : ケープタウン (南アフリカ)

主要議題の検討内容

議題 3. 栄養強調表示の使用に関するガイドライン：栄養成分表示の条件表案 (Part B：食物繊維含有量について) (ステップ 7)

第 28 回会合において WHO より提案された新たな定義案 (基本的に植物由来のものであって、消化性の可否によらない、3 糖類など合成されたものや低分子のものは除く、など) について、前回第 29 回会合直前に科学的根拠に関する文献が配布されたが、各国が文献を十分に検討する時間がなかったことから具体的な議論は行わず、ステップ 6 に差し戻されていたもの。

我が国の栄養表示基準の制度との整合性も考慮しつつ、現行定義案を支持する方向で対応したい。

議題 5. 栄養・特殊用途食品部会により適用される栄養学的リスク分析の原則及びガイドライン案 (ステップ 7)

各部会において関連する分野に適用するリスク分析の指針を策定すべきとの総会の要請に対応し、CCNFSDU に適用されるリスク分析の原則案を議論しているもの。本年 7 月に開催された第 31 回コーデックス総会において、最終採択後は手続きマニュアルに記載されること、また、この分野におけるリスク分析ポリシーを定義するためには FAO/WHO からの助言が重要であることを確認した上で、ステップ 5 で予備採択されている。

コーデックスで適用されるリスク分析の作業原則との関係に留意しつつ、栄養に関するリスク分析の特性を踏まえた内容の文書が策定されるよう対応したい。

議題 6. 健康強調表示の科学的根拠についての勧告原案 (ステップ 4)

健康強調表示は、栄養素及びその他の成分と健康状態の関係について述べた表示である。前回会合において、本文書を「健康強調表示の使用のためのガイドライン」の付属文書とすることが再確認され、それに伴い定義等の修文がなされたが、文書の構造を変えるべきという指摘がなされ合意にいたらなかった

ため、再度フランスを中心とする電子作業部会で原案を作成することとなった。

我が国においては、健康強調表示に関わる制度として、保健機能食品制度を施行しているところであることから、我が国の制度との整合性も考慮しつつ、各国の取組み状況や国際的な動向等に留意し対応したい。

議題 7. 栄養表示ガイドラインに則った表示を目的とした栄養参照量 (NRV) の追加あるいは改訂原案 (ステップ 4)

全ての食品に適用する表示目的の NRV を設定することについて議論しているもの。前回会合において、NRV 策定の対象を一般集団に絞るのか、それとも乳幼児も含むのかについて議論され、まず一般集団に対する NRV のガイドラインを作成し NRV の見直しを検討する、次に、一般集団に対するガイドラインに基づいて乳幼児を対象とするガイドラインを作成し、NRV を設定することとされた。また、ビタミン、ミネラルに関する部分を優先して作業を行うことで合意された。今次会合では、韓国作成の原案に基づいて議論される。

栄養参照量 (NRV) は、年齢や性別、食生活等、様々な要因により各国・各地域で異なるものであることから、消費者の誤解を招かぬよう慎重に適用することが望ましいとの立場で、我が国の食事摂取基準等も考慮しつつ、各国の発言に留意して対応したい。

FAO / WHO 合同食品規格計画

第 16 回アジア地域調整部会

日時： 2008 年 11 月 17 日 (月) ～11 月 21 日 (金)

場所： デンパサール (インドネシア)

仮議題

1.	議題の採択
2.	コーデックス総会及びその他の部会からの付託事項
3.	ステップ 7 での規格案の検討
a)	コチュジャンの地域規格案
b)	朝鮮人参の地域規格案
4.	ステップ 4 での規格原案の検討
a)	発酵大豆ペーストの規格原案 －セクション 3.2 (品質要件) に関する電子作業部会の報告－
b)	非発酵大豆食品の規格原案 －非発酵大豆食品に関する電子作業部会の報告－
c)	チリソースの地域規格原案
d)	さご椰子粉の地域規格原案
5.	コーデックス委員会の作業を補完する FAO/WHO の活動について －アジア地域における STDF プログラムの活動－
6.	アジア地域調整部会の戦略的計画案
7.	各国の食品管理システム及び食品規格策定における消費者の参画に関する情報
8.	各国及び地域レベルにおけるコーデックス規格及び関連文書の使用に関する情報
9.	アジア地域における栄養問題
10.	地域調整国の指名
11.	その他の事項及び今後の作業
12.	次回会合の日程及び開催地
13.	報告書の採択

第 16 回アジア地域調整部会 (CCASIA) 概要

日時 : 2008 年 11 月 17 日 (月) ~ 11 月 21 日 (金)

場所 : デンパサール (インドネシア)

今次会合においては、以下の 6 つの個別食品に係る地域規格を検討することとなっている。

- ・ ステップ 7 : コチュジャン、朝鮮人參
- ・ ステップ 4 : 発酵大豆ペースト (みそ)、非発酵大豆食品 (とうふ類)、チリソース、さご椰子粉

なお、第 30 回総会 (2007 年 7 月) において、地域規格の国際規格化については、「地域調整部会の個別食品に係る作業は、その委任事項に従い、地域規格の策定に専念すべき」とされ、地域規格としてステップ 8 で採択された後、改めて、国際規格とするかどうかを検討することとされた。

主要議題の検討内容

議題 3 ステップ 7 での規格案の検討

3 a) コチュジャンの地域規格案 (新規作業採択 : 2004 年)

3 b) 朝鮮人參の地域規格案 (新規作業採択 : 2004 年)

これらの規格案については、個別の条文についての論争は想定されない一方、地域規格としてステップ 8 として総会で最終採択された後に国際規格にすべきかどうか、適切な個別食品部会において検討を行うよう地域調整部会としての見解をまとめるとの意見が出される可能性がある。

我が国としては、第 31 回総会 (2008 年) において示された、執行委員会が作成した「個別食品に適用可能な作業の優先順位付けのための規準の適用に関するガイドライン」に基づき、慎重に検討し対応すべきとの立場から対処したい。

議題 4 ステップ 4 での規格原案の検討

4 a) 発酵大豆ペーストの規格原案 (新規作業採択 : 2005 年)

今次会合においては、特にセクション 3.2 (品質要件) のアミノ酸含量の規定について、前回会合で合意された分析方法を用いた上で、再度その数値を検討することとされている。我が国からも、データを提出しているところであり、これらのデータに基づいて、市場に流通する全ての製品を含む包括的な基準値が設定されるよう対処したい。

4 b) 非発酵大豆食品の規格原案 (新規作業採択 : 2005 年)

前回会合においては、対象とする製品を 4 つのカテゴリー (Soybean milk / beverage、Soybean curd、Compressed soybean curd、Soybean film) とすることとされ、今次会合においては、

①これらの4つのカテゴリーの製品すべてに適用する規定の策定、
②これらの製品に適切な名称、
を中心に議論されることが想定される。

我が国は、前回会合において、対象とする製品及び規格の名称について再度検討すべきと主張してきたところであり、今次会合においても、規格の策定に足るだけの十分な貿易量があるか、また包括的な規格となっているか等、コーデックスの規格策定の規準との整合性を考慮しつつ、当該規格の策定が我が国の市場に混乱をもたらさないよう対処したい。

4 c) チリソースの地域規格原案（新規作業採択：2007年）

タイの提案では、その対象が“主としてチリを含み・・・”となっており、我が国を含め国際的に生産され流通されているトマトベースのものは含まれていない。

新規作業の採択の際、当該規格については、

- ①地域規格としてアジア地域調整部会で検討すること
- ②検討に当たっては、当該地域外の国の意見についても十分に配慮すること
- ③国際規格の必要性については、加工果実・野菜部会において議論することとされた。

一方、その後、第31回総会においては、生鮮果実・野菜部会の新規作業として、「チリペッパーの規格」が採択されたところである。

公正な貿易の促進の観点及び消費者の混乱防止の観点から、規格名については原材料の性質を適切に表現すべきとの立場に立ち、引き続き対処したい。

4 d) さご椰子粉の地域規格原案

インドネシアの提案では、その対象が、精製工程が少なく、でん粉含量の低い「さご椰子粉（Sago Flour）」となっている。一方我が国は、これに比較してでん粉含量の高い「さごでん粉」を輸入していることから、当該規格の策定により、我が国の「さごでん粉」の貿易に支障が生じないように対処したい。

議題10 地域調整役の指名

現在、アジア地域においては、第30回総会（2007年）において指名されたインドネシアが地域調整国を務めており、その続投が予想されるが、適宜、対処したい。

第31回コーデックス総会以降の連絡協議会開催予定

コーデックス会議名	開催予定日	連絡協議会の議題予定
第24回加工果実・野菜部会 (CCCPFV)	2008年 9月15日(月)～9月20日(土)	第36回連絡協議会の議題 ・会合開催後の報告 第24回加工果実・野菜部会 第2回抗菌剤耐性に関する特別部会 第30回栄養・特殊用途食品部会
第2回抗菌剤耐性に関する特別部会 (TFAMR)	10月20日(月)～10月24日(金)	
第30回栄養・特殊用途食品部会 (CCNFSDU)	11月3日(月)～11月7日(土)	
第36回連絡協議会	11月中旬	・会合開催前の説明 第17回食品輸出入検査・認証制度部会 第40回食品衛生部会 第21回油脂部会
第16回アジア地域調整部会 (CCASIA)	11月17日(月)～11月21日(金)	
第17回食品輸出入検査・認証制度部会 (CCFICS)	11月24日(月)～11月28日(金)	
第40回食品衛生部会 (CCFH)	12月1日(月)～12月5日(金)	第37回連絡協議会の議題 ・会合開催後の報告 第16回アジア地域調整部会 第17回食品輸出入検査・認証制度部会 第40回食品衛生部会
第37回連絡協議会	1月中旬～2月中旬	
第21回油脂部会 (CCFO)	2月16日(月)～2月20日(金)	・集中意見交換 第37回食品表示部会
第38回連絡協議会	2月下旬～3月上旬	
第30回分析・サンプリング法部会 (CCMAS)	3月9日(月)～3月13日(金)	第38回連絡協議会の議題 ・会合開催後の報告 第21回油脂部会
第3回食品添加物部会 (CCFA)	3月16日(月)～3月20日(金)	
第3回汚染物質部会 (CCCF)	3月23日(月)～3月26日(木)	
第25回一般原則部会 (CCGP)	3月30日(月)～4月3日(金)	・会合開催前の説明 第30回分析・サンプリング法部会 第3回食品添加物部会 第3回汚染物質部会 第25回一般原則部会
第39回連絡協議会	4月上旬～4月中旬	
第41回残留農薬部会 (CCPR)	4月20日(月)～4月25日(土)	第39回連絡協議会の議題 ・会合開催後の報告 第30回分析・サンプリング法部会 第3回食品添加物部会 第3回汚染物質部会 第25回一般原則部会
第37回食品表示部会 (CCFL)	5月4日(月)～5月8日(金)	
第18回食品残留動物用医薬品部会 (CCRVDF)	5月11日(月)～5月15日(金)	・会合開催前の説明 第41回残留農薬部会 [第37回食品表示部会] 第18回食品残留動物用医薬品部会
第40回連絡協議会	5月下旬～6月中旬	
第62回執行委員会 (EXE)	6月23日(火)～6月26日(金)	第40回連絡協議会の議題 ・会合開催後の報告 第41回残留農薬部会 第18回食品残留動物用医薬品部会
第32回総会 (CAC)	6月29日(月)～7月4日(土)	
		・会合開催前の説明 第32回総会